

## グローバルニッチ API の雄に

医薬品原薬 (API) の中堅メーカー、桂化学株式会社が今年、設立 70 周年を迎えた。創業以来の「人の役に立つ」、「課題に挑戦する」という精神を活かし、「グローバルニッチ API のリーディングカンパニー」を目指す。桂良太郎社長は、「確かな仕事で、高品質な製品を提供する、“桂化学 Quality”を基本に顧客のグッドパートナーとしてともに発展していく」。数年前から、桂化学 Quality を提唱し、品質確保はもちろん、顧客に選ばれる特徴づくりなど、ソフト・ハードの両面から体制を整備。同時に、新薬開発の API パートナーとなるチャレンジも打ち出すなど、新たな桂化学へと大きく舵を取っている。「桂化学 Quality は終わりなき目標であり、絶えざる挑戦のスローガンでもある。70 周年を機に、一段とギアをあげていく」と、桂社長は先を見つめる。



桂良太郎社長

## 人の役に立つ、が出发点

桂化学株式会社の創業者である桂廣太郎博士は、日露戦争時に総理大臣を務めた桂太郎の孫にあたり、戦前は貴族院公議議員を務めていた。終戦後、1947年には貴族院が廃止されたこともあり、桂廣太郎博士は、東京帝国大学(現東京大学)薬学部での知識と経験を活かし、終戦直後の社会ニーズに応える目的で1948年、合成甘味料サッカリンを製造するため、東京・三田の自宅敷地内に桂化学研究所を設けて創業。3年後の1951年には、桂化学株式会社を設立し、化学合成技術を活かした事業に本格的に取り組むことになった。

桂廣太郎博士の孫に当たる、桂良太郎社長は「会社発足当時は、祖父の学校の先輩や同級生らの依頼が事業の大きな部分を占めていたと聞いている。また、祖父は学者肌で、貴族院議員でもあったためか、“人の役に立つ”とか“困難で克

服し難いテーマに挑戦する”という姿勢で仕事に向き合っていたようだ」という。桂化学のメイン製品である医薬品原薬(API)は、医薬品の効能・効果の源であり、人の健康維持や回復に大きな働きを示す、典型的な“人の役に立つ”製品といえる。

## ビジネスに新しい目標

ビジネスは高邁な理念だけでは持続も発展もしない。API事業は、1990年代以降、インドなど新興国勢力の台頭に伴ってコスト競争がし烈となり、我が国のAPIメーカーにとっても試練のときを迎

## 会社概要



本社・工場：神奈川県座間市ひばりが丘 4-15-19

電話：046-251-0948

拠点：東京事務所(中央区日本橋本町 4-12-13 日本橋三友ビル 6F)

資本金：3000 万円

従業員：54 名

URL：<https://www.katsura-chemical.co.jp>

えるようになってきた。

桂良太郎社長が社長に就任した2004年は、このような時代であった。「30歳で代表者になったが、売り上げも人員も現在の半分程度と厳しい状況に直面した。また、経営に関しても全くの素人。BS（貸借対照表）やPL（損益計算書）と言われて、なんで衛星放送や高校野球が経営に関係するのだろう、と思ったくらい。それだけに、多くを学びながら必要なものを選択するために、常に素直な気持ちで取り組む姿勢ができたと思う」と経営者としての苦労を語るが、新しい視点を生み出す契機になっている。

それが、「グローバルニッチAPIのリーディングカンパニーを目指す」、「新薬開発の製造部門を担うCDMO（コントラクト・ディベロップメント・マニュファクチャリング・オーガニゼーション）事業の本格化」という2つのコンセプト。

グローバルニッチAPIは、字義どおり、世界的に見逃されるような規模の小さいAPI。それだけに、大手企業も手を出さない、価格競争にも巻き込まれず、高い技術力がなければ対応できない。ただ、見つけるためには、幅広い情報網やコミュニケーション力が必要とされる。「数年前に、ドイツのコンサルタントと契約し、この分野を開拓するため、海外企業とのコミュニケーションを積極的に行い、具体的な成果も得られ始めてい

る」という。

CDMO事業は、これまでのAPI受託事業のCMO事業に比べ、はるかに高度な知識と技術が要求される。「昨年春には、本社工場内にシングルユースのアイソレーターやウォークインドラフトを備えたレベル5のクリーンルームを建設、数グラムから数キログラムの生産に対応できる。拡張スペースも確保し今後の展開にも柔軟に対応可能な体制を整えた」という。

#### 新しい仕組みのアライアンス

70周年を迎え、新たな視点を導入したビジネスの発展にギアアップした桂化学。桂良太郎社長は、「新規ビジネスを育てていく上で最も大切なのは、“桂化学でなければならない”と顧客に選択してもらうことだ。その選択の理由こそ、今後も磨いていかなければならない部分だ」。桂化学 Quality の目指す方向性はここにある。

桂良太郎社長はまた、「顧客満足のためには、当社だけでは十分に対応できないことも想定して、アライアンスにも積極的に取り組んでいきたい。様々な分野に、アライアンスパートナーを持ち、総合力で顧客満足の質を上げていく。そんな仕組みづくりを進めたい」と、70年の

© 2021 The Chemical Society of Japan



高薬理活性棟の内部

## 沿革

1948年（昭和23年）3月

桂廣太郎、桂化学研究所を創立



1951年5月

桂化学株式会社設立



1963年5月

神奈川県座間市に相模工場新設



1980年5月

相模工場の第一および第二製造所を増設・設備大型化を実施

1981年9月

桂榮二郎が社長就任

1987年7月

第二製造所を建て替え、原薬GMP対応を整備

1997年4月

相模工場でFDAの認可取得

2000年3月

相模工場で医薬品製造業許可更新

2003年12月

桂良太郎が社長就任

2004年5月

本社を相模工場に移転、東京連絡事務所開設

2009年11月

本社・相模工場でISO14001の認証取得

2010年9月

研究所開設

2013年11月

研究所でISO14001の認証取得

2015年11月

本社棟増設、研究所を本社棟に移転

